

平成 18 年(2006 年)10 月 25 日

情報セキュリティ政策会議 第 8 回会合

議事内容意見書

拓殖大学海外事情研究所客員教授／軍事評論家 江畑謙介

1:サイバー戦が実用段階になったという認識を

- ①米空軍は近く「サイバースペース・コマンド」を新設する。

(在日米空軍の第5空軍に相当する地位の独立戦闘組織)

- ②近くラムズフェルド国防長官は「サイバースペース作戦に対する国家軍事戦略」を承認する予定。

- ③ここ数年前からサイバー戦に関する具体的な情報がほとんど公表されなくなった。

これらのことから、サイバースペースの戦いが本格的な実用段階に達したと考えられる。関係各省庁と閣僚には、この現実を十分ご認識いただきたい。

2:政府はパスワードに代わる認証方式やデータの暗号化を

- ①パスワードよりも生態認証機能を持つアクセスカードの導入を。

米陸軍はこのような Common Access Card(CAC)の使用を開始した。パスワードを容易に推測されないようにしようとすると、記憶しておくのが難しくなり、紙に書いておくなどして、かえってセキュリティが脆弱になる。

- ②政府関係データは全て暗号化する。

米国防総省は基本的に全てのデータを暗号化する方針
データを収めた PC の紛失、盗難、不注意なファイル交換ソフトの使用などで情報流出の危険が高まっている。

(了)